

# 東アジア地域像の新構成

研究代表者 芳 井 研 一

## 1. 分担者

井 村 哲 郎  
関 尾 史 郎  
児 玉 憲 明  
山 内 民 博  
永 木 敦 子  
錦 仁  
橋 本 博 文  
中 西 啓 子  
佐 藤 康 行  
中 村 潔

## 2. 協力者・所属

柴 田 幹 夫・国際センター

## 3. 2006年度の研究活動の概要

本プロジェクトの目的のうちの一つの柱である東アジア地域研究に関する国際的学術ネットワークづくりの面を中心に、本年度もいくつかの取り組みを進めた。

- (1) プロジェクトメンバーが中心になり、人文学部の新たな学術交流相手校としてタイ国チェンマイ大学人文学部・マスコミュニケーション学部・社会科学部と学術交流協定を締結し、研究交流を行った。
- (2) 「第6回旧植民地資料に関するワークショップ」(2006年9月23日)の開催を本プロジェクトとして支えた。このワークショップは、日本が関わっ

たアジア諸地域に関する史資料の状況とこの時期の史資料の保存修復に関する報告からなっており、今後の研究の展開と資料ネットワークの強化に大きな役割を果たすであろう。

- (3) 第2回:国際ワークショップ「中国東北と日本」(2006年9月24日)の開催を本プロジェクトとして支えた。このワークショップは、中国東北に関わる日本語文献を多数所蔵する中国の機関の資料状況の把握につとめると同時に、今後の国際研究協力推進のために行ったものである。
- (4) 人文学部主催の国際シンポジウム「東アジアの地域ネットワーク」(2007年3月24日開催)を本プロジェクトとして支えた。報告者は以下に示すように海外から5人、国内4人の計9人で、以下の通り。ゴスン・サイチャン(タイ国・チェンマイ大学社会科学部・教授)、アチャラー・パヌラット(タイ国・スリン地域総合大学・学長)、徐勇(中国・北京大学歴史学部教授)、曲金良(中国海洋大学教授、同大学海洋文化研究所長)、李起豪(韓国・聖公会大学大学院教授、平和フォーラム事務局長)、中村俊彦(環日本海経済研究所・調査研究部長)、山下研(新潟県県民生活環境部環境対策課・副参事)、山田一隆(京都・まいづる立命館地域創造機構・事業主幹、環日本海学会・事務局長)、渡邊登(新潟大学人文学部教授)。参加者は学内の教員・学生の他、新潟国際情報大学など近隣の大学教員・学生、関心のある一般市民が参加した。
- (5) 本プロジェクトの定例研究会として、2006年11月29日、林嵐(中国・東北師範大学教授)「芥川小説『首が落ちた話』と『虞初新誌』」を開催した。日本と中国の文学における相互影響と文化受容に関する報告であった。

#### 4. 2006年度の研究成果の概要

本年度のプロジェクトの研究成果を『環日本海研究年報』第14号および、『環東アジア研究センター年報』第2号に掲載した。

## 5. 2006年度の研究成果の一覧

中西啓子「唐代小説における冥界観」（『異界の交錯』巻下，リトン）。

池田哲夫『佐渡島の民俗』高志書院，2006年5月。

池田哲夫「海の資源保護と漁村の持続性」（日本村落研究学会編『村の資源を研究する』，2007年3月，農文協）74～84頁。

井村哲郎「満鉄刊行物の現在」『満鉄とは何だったのか』（「別冊 環」第12号）2006年11月。

井村哲郎「書評・加藤聖文著『満鉄全史』」『日本経済新聞』2007年1月7日書評欄。

柴田幹夫「シンガポール本願寺と日本語学校」『環日本海研究年報』第14号，2007年2月。

芳井研一「『満蒙』問題の現出と洮索・索温沿線の社会変容」『環日本海研究年報』第14号，2007年2月。

芳井研一「青島港を中心とする環黄海物流ネットワークの形成」『環東アジア研究センター年報』第2号，2007年3月。